

浜の活力再生プラン
令和 6 ～ 1 0 年度
第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	磐田市福田地域水産業再生委員会
代表者名	会長 安間 英雄（遠州漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	遠州漁業協同組合、磐田市
オブザーバー	静岡県（水産振興課、水産・海洋技術研究所）

対象となる地域の範囲 及び漁業の種類	磐田市豊浜地区（遠州漁協の地区） しらす船びき漁業（160 名）、一本釣り漁業（70 名） 令和 6 年 3 月時点
-----------------------	--

2 地域の現状

（１）関連する水産業を取り巻く現状等

当地区の漁業は、シラス漁業が中心であり、福田漁港における令和 5 年度の水揚げ量 418t のうち、シラスは 409t（約 97%）を占めている。

遠州漁協（以下「漁協」）が位置する遠州灘の沖合はシラスの好漁場であり、当地区の漁業を長年支えてきた。近年は、漁獲量が減少傾向にあるが希少価値が高くなり、魚価高が続いている。

しかし、シラス漁業に依存した漁家経営は、漁獲量変動や燃油高騰に左右されやすい、シラス漁が休漁となる冬季に収入源となる漁業がないといった問題を抱えている。

これらの問題を解決するため、令和 5 年までの第 2 期プランでも取り組んできた水産物の知名度向上や販路拡大をさらに進めていく必要がある。第 1 期プラン中に磐田市が食の拠点として平成 28 年に福田漁港内に整備した「渚の交流館」では、現在は地区内の一部漁業者が直売を行っているが、漁業関係者が当該施設さらに活用し、地区全体の漁業活性化のために有効利用していくことが必要である。

また、シラス漁業に依存している地区漁業を安定させるため、休漁期となる冬季の漁業収入源確保をさらに進めていく必要がある。第 1 期プランから漁港内でのワカメ養殖に取り組んでおり、技術面では安定的な生産が実施できるようになった。ワカメ養殖について、生産規模や販路の拡大を検討し、漁業収入源として確立させていく必要がある。ワカメの他にも、漁協および漁業者は、これまでに様々な魚種の活用を模索してきた。漁業収入につながる成果をあげられた魚種ばかりではないが、今後も地区の収入源確保のため新規漁業を模索する努力を継続していく。

（２）その他の関連する現状等

福田漁港の周辺は、年間を通じて釣りやサーフィン等多くのレジャー客が訪れる地域であり、福田漁港に近い国道 150 号線の交通量は平日も非常に多い。平成 30 年には、国道と福田漁港を繋ぐ新たな道が完成し、福田漁港へのアクセス道路が 2 本となった。レジャー客にとっては、利便性の向上だけでなく、大規模災害に対する不安感を払拭する要素の一つとなっている。このアクセスを有効に活用し、当地区の活性化に繋がることを期待する。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

（２）今期の浜の活力再生プランの基本方針

＜収入向上の取組＞

①水産物の知名度向上、販路拡大

- ・漁協および漁業者は、「渚の交流館」でのイベントを積極的に実施し、地区水産物の知名度向上、販路拡大を図る。
- ・漁業者、漁協、鮮魚商組合及び水産加工業者等が連携して、前浜で漁獲される高鮮度のシラスやトラフグ、タチウオ等のＰＲを行うとともに、新たな販路の確保や新商品開発の取組を推進していく。

②新たな漁業収入源の確保

- ・漁業者は、シラス漁が禁漁となる冬季の漁業収入確保のため、第１期から取り組んでいるワカメ試験養殖の規模と販路の拡大を図る。
- ・漁協および漁業者は、岩ガキについても地区の新たな漁業対象資源として活用の可能性を検討していく。
- ・新たな取組として、地区漁業士が中心となり、ノコギリガザミの稚ガニの放流を行うとともに、成ガニの採捕を兼ねた効果調査を実施し、漁業収入源の確保を図る。

＜コスト削減の取組＞

③船底清掃による燃料コスト削減

漁業者が積極的に船底清掃に取り組み、燃料使用量の削減を継続する。

＜漁村の活性化の取組＞

④次世代への地区水産業ＰＲ

小学生等を対象とした市場見学を積極的に受け入れ、漁業の未来を担う世代へ地区水産業ＰＲを図る。

⑤漁港の美化実施

漁業者が漁港内清掃、周辺草刈り等を実施し、清潔な漁港とすることで、漁村の活性化に繋げる。

（３）資源管理に係る取組

- ・静岡県海域における、遠州漁業協同組合のシラスの資源管理計画に基づき、資源保護に配慮した操業を実施している。
- ・静岡県漁業調整規則に定められているシラスの採捕禁止期間を遵守している。

（４）具体的な取組内容

１年目（令和６年度） 所得向上率（基準年比）8.20%

漁業収入向上のための取組	・漁協および漁業者は、産地直売機能の強化のために「渚の交流館」で水産教室や直売活動などのイベントを実施し、地区水産物の知名度向上、販路拡大を図る。 ・漁業者、漁協、鮮魚商組合及び水産加工業者等が連携して、前浜で漁獲される高鮮度の水産物（シラス、トラフグ、タチウオ等）のＰＲ方法を検討するとともに、新たな販路の確保や新商品開発の取組も推進していく。 ・漁協および漁業者は、冬期の漁業収入源としてワカメ養殖の有用性を検証し、養殖規模の拡大について協議を行う。 ・漁協および漁業者は、新たな漁業対象資源として岩ガキの活用計画について協議を行う。 ・漁協および漁業者は、ノコギリガザミの資源増大に有効な種苗放流および特別採捕の計画を作成する。
--------------	---

漁業コスト削減 のための取組	・ 漁業者は、漁船の燃費向上のため、船底清掃を積極的に実施し、燃料使用量の削減を図る。
漁村の活性化の ための取組	・ 漁業士を中心に、小学生等の市場見学、水産教室、職場体験等を積極的に受け入れ実施し、次世代への地区水産業のPRを図る。 ・ 漁業士を中心に、港内清掃、港内周辺草刈り等を実施して清潔な漁港とすることにより、漁村の活性化に繋げる。
活用する支援措 置等	・ 漁業経営セーフティーネット構築事業

2 年目（令和 7 年度） 所得向上率（基準年比）9.52%

漁業収入向上の ための取組	・ 産地直売機能の強化のために漁協および漁業者による「渚の交流館」でのイベントを継続し、地区水産物の知名度向上、販路拡大に取り組む。 ・ 漁業者、漁協、鮮魚商組合及び水産加工業者等が連携して、前浜で漁獲される高鮮度の水産物をPRしながら、新たな販路の確保や新商品開発を行う。 ・ シラス漁の休漁期（1月15日から3月20日まで）に、漁港施設の有効利用と漁業収入の確保を目指して、ワカメ養殖の規模および販路の拡大、ノコギリガザミの種苗放流および特別採捕を行う漁業者を増やし、漁協はこれらの取組を支援する。 ・ 岩ガキについては、漁協は資源状況の把握に努め、漁業者は資源の持続的な利用に配慮しながら水揚げを行う。
漁業コスト削減 のための取組	・ 漁業者は、漁船の燃費向上のため、船底清掃を積極的に実施し、燃料使用量の削減を図る。
漁村の活性化の ための取組	・ 漁業士を中心に、小学生等の市場見学、水産教室、職場体験等を積極的に受け入れ実施し、次世代への地区水産業のPRを図る。 ・ 漁業士を中心に、港内清掃、港内周辺草刈り等を実施し、清潔な漁港とすることで、漁村の活性化に繋げる。
活用する支援措 置等	・ 漁業経営セーフティーネット構築事業

3 年目（令和 8 年度） 所得向上率（基準年比）10.83%

漁業収入向上の ための取組	・ 産地直売機能の強化のために漁協および漁業者による「渚の交流館」でのイベントを継続し、地区水産物の知名度向上、販路拡大に取り組む。 ・ 漁業者、漁協、鮮魚商組合及び水産加工業者等が連携して、前浜で漁獲される高鮮度の水産物（シラス、トラフグ、タチウオ等）をPRしながら、新たな販路の確保や新商品開発を行う。 ・ シラス漁の休漁期（1月15日から3月20日まで）に、漁港施設の有効利用と漁業収入の確保を目指して、ワカメ養殖の規模および販路の拡大、ノコギリガザミの種苗放流および特別採捕を行う漁業者を増やし、漁協はこれらの取組を支援する。 ・ 岩ガキについては、漁協は資源状況の把握に努め、漁業者は資源の持続的な利用に配慮しながら水揚げを行う。
------------------	---

漁業コスト削減 のための取組	・漁業者は、漁船の燃費向上のため、船底清掃を積極的に実施し、燃料使用量の削減を図る。
漁村の活性化の ための取組	・漁業士を中心に、小学生等の市場見学、水産教室、職場体験等を積極的に受け入れ実施し、次世代への地区水産業のPRを図る。 ・漁業士を中心に、港内清掃、港内周辺草刈り等を実施し、清潔な漁港とすることで、漁村の活性化に繋げる。
活用する支援措 置等	・漁業経営セーフティーネット構築事業

4 年 目（令和 9 年度） 所得向上率（基準年比）12.15%

漁業収入向上の ための取組	・産地直売機能の強化のために漁協および漁業者による「渚の交流館」でのイベントを継続し、地区水産物の知名度向上、販路拡大に取り組む。 ・漁業者、漁協、鮮魚商組合及び水産加工業者等が連携して、前浜で漁獲される高鮮度の水産（シラス、トラフグ、タチウオ等）物をPRしながら、新たな販路の確保や新商品開発を行う。 ・シラス漁の休漁期（1月15日から3月20日まで）に、漁港施設の有効利用と漁業収入の確保を目指して、ワカメ養殖の規模および販路の拡大、ノコギリガザミの種苗放流および特別採捕を行う漁業者を増やし、漁協はこれらの取組を支援する。 ・岩ガキについては、漁協は資源状況の把握に努め、漁業者は資源の持続的な利用に配慮しながら水揚げを行う。
漁業コスト削減 のための取組	・漁業者は、漁船の燃費向上のため、船底清掃を積極的に実施し、燃料使用量の削減を図る。
漁村の活性化の ための取組	・漁業士を中心に、小学生等の市場見学、水産教室、職場体験等を積極的に受け入れ実施し、次世代への地区水産業のPRを図る。 ・漁業士を中心に、港内清掃、港内周辺草刈り等を実施し、清潔な漁港とすることで、漁村の活性化に繋げる。
活用する支援措 置等	・漁業経営セーフティーネット構築事業

5 年 目（令和 10 年度） 所得向上率（基準年比）13.47%

漁業収入向上の ための取組	・産地直売機能の強化のために漁協および漁業者による「渚の交流館」でのイベントを継続し、地区水産物の知名度向上、販路拡大に取り組む。 ・漁業者、漁協、鮮魚商組合及び水産加工業者等が連携して、前浜で漁獲される高鮮度の水産物（シラス、トラフグ、タチウオ等）をPRしながら、新たな販路の確保や新商品開発を行う。 ・シラス漁の休漁期（1月15日から3月20日まで）に、漁港施設の有効利用と漁業収入の確保を目指して、ワカメ養殖の規模および販路の拡大、ノコギリガザミの種苗放流および特別採捕を行う漁業者を増やし、漁協はこれらの取組を支援する。 ・岩ガキについては、漁協は資源状況の把握に努め、漁業者は資源の持続的な利用に配慮しながら水揚げを行う。
------------------	---

漁業コスト削減のための取組	・ 漁業者は、漁船の燃費向上のため、船底清掃を積極的に実施し、燃料使用量の削減を図る。
漁村の活性化のための取組	・ 漁業士を中心に、小学生等の市場見学、水産教室、職場体験等を積極的に受け入れ実施し、次世代への地区水産業のPRを図る。 ・ 漁業士を中心に、港内清掃、港内周辺草刈り等を実施し、清潔な漁港とすることで、漁村の活性化に繋げる。
活用する支援措置等	・ 漁業経営セーフティーネット構築事業

（５）関係機関との連携

取組の効果が十分に発現されるよう、行政（静岡県、磐田市）、関係団体（静岡県漁業協同組合連合会）、地域団体（福田水産加工組合、福田鮮魚商組合）、「渚の交流館」等と連携を図る。
--

（６）取組の評価・分析の方法・実施体制

・ 地区水産物の認知状況を把握するため、「渚の交流館」等においてアンケート調査を行い、取組の参考とする。 ・ 本再生委員会を年１回開催し、浜プランの取組状況を評価する。また、必要に応じて、外部専門家を招聘し助言等を求める。
--

４ 目標

（１）所得目標

漁業者の所得の向上 10%以上	基準年	
	目標年	

（２）上記の算出方法及びその妥当性

--

（３）所得目標以外の成果目標

燃油額の抑制	基準年	平成 30 年～令和 4 年の 5 中 3 平均 :	74, 342 千円
	目標年	令和 10 年度 :	70, 625 千円

地区の水産業・水産物のPR のための市場見学	基準年	平成 26 年～令和 5 年の 10 年平均：	10 組
	目標年	令和 10 年度：	15 組

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

・船底清掃、減速航行の徹底により、燃油使用量を基準年から 5%削減する。 ・これまでの社会科見学で小学校 3 年生から 4 年生、各種団体等の市場見学の受け入れをしてきた過去 10 年の実績から、受入数の平均を算出した。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティーネット 構築事業	燃料急騰による、漁業コスト圧迫防止措置